



ノリタケの森

これってなに？ どうやって使うの？

ノリタケミュージアム企画展

ちょっとふしぎな陶磁器たち

期 間 2022 10/4 (火) ▶ 2023 12/25 (月)

開催場所 ノリタケの森 クラフトセンター3階 ノリタケミュージアム

開催時間 10時～17時

休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始

入 館 料 大人500円、65歳以上300円、高校生以下、障がい者手帳をお持ちのかた無料



1876(明治9)年、東京銀座に創業した森村組(現:森村商事株)は、外貨を得て日本を豊かにするべく、アメリカ向けに雑貨の輸出・販売を始めました。好評だった陶磁器を主力商品とし、やがて飾皿や壺などの装飾品から実用的なディナーセットへと、取扱品の転換を図ります。そして1904(明治37)年、愛知郡鷹場村大字則武(現:名古屋市西区則武新町)に近代的な洋食器工場を建設、日本陶器合名会社(現:株ノリタケカンパニーリミテド)が創立しました。試行錯誤の末、日本初のディナーセットを完成させたのはその10年後のことです。



創立以来120年近くにわたり、ノリタケは人々の生活に寄り添い続けています。

日本とアメリカの生活様式が大きく異なる時代、海外の文化に沿う商品を提供することは容易ではありませんでした。そのような中でも、市場の求めに応じ「ミルク缶ホルダー」や「マスターシュカップ」といった、当時の日本では使う機会のなかった商品も数多く手がけてきました。さらに食卓用だけでなく「インク壺」や「プロッター」などの文具をはじめ、おしゃれな化粧セットや喫煙具セットも製造していました。



ヨーロッパで誕生した洋食器のなかには、使い方が想像しにくいアイテムが存在します。生活スタイルの変化や新しい素材の誕生、技術の発展とともに便利なものが生まれる一方で、目にする機会が少なくなったものも数多くあります。



本展では、一目では使い方が想像しにくいものや、現在では見かけなくなった品々を一堂に集めご紹介します。

ノリタケミュージアム

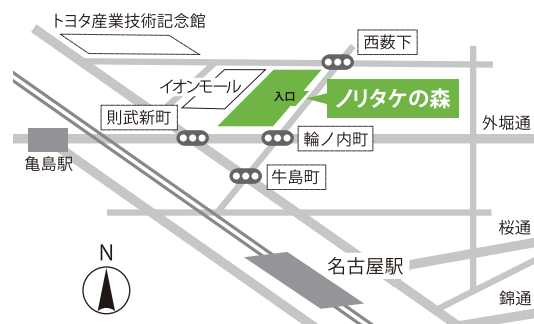


ノリタケの森

名古屋市西区則武新町三丁目1番36号 TEL: 052-561-7114

【アクセス】名古屋市営地下鉄東山線亀島駅2番出口徒歩5分
JR・名鉄・近鉄 名古屋駅から徒歩15分
駐車場: なし(隣接するイオンモールの駐車場をご利用ください※有料)

【ホームページ】<https://www.noritake.co.jp/mori/>



Noritake